

「中村久子の生涯」

目標 障害のある中村久子さんの生き方や考え方にふれ、生きることのすばらしさを感じ、心のバリアフリーの大切さに気付く。

コンピューターを活用する利点

プロジェクタで大きく映し出された映像を見ることで、子どもたちが学習に集中し、深い印象を受けることができる。また、写真や発問を提示することで授業展開がスムーズとなる。

授業の流れ

中村久子さんの写真を見て思ったこと、感じたことを発表する。

中村久子さんができなかったのは次の内のどれかを考える。

ハサミを使う 箸を使う
着物を着る 包丁を使う
掃除をする 洗濯をする

中村さんが初めに母に教えてもらったのは～のうちどれかを考える。

縫った人形を捨てられた中村さんは、その後どうしたかを考える。

中村さんが幸せな晩年を送ったことを聞く。

ヘレンケラーの言葉を考える。
「障害は()である。しかし、()ではない。」()に入る言葉を考える。

今日の授業の感想を書く。

ICT 活用場面

いくつかの場面で中村久子さんの実写や再現の映像を映し出した。映像は、平成11年に放送された日本テレビ「知ってるつもり」の『ヘレンケラーと中村久子』という番組である。発問や説明に合わせて効果的な部分だけを2～3分の映像で流したり、途中で止めて教師の注釈を加えていった。いくつかある場面の先頭には映像ソフトのブックマーク機能を使った。かつてはVHSのテープで授業を行っていたこともあったが、こうした機能はパソコンに取り込むことで可能になった。写真や発問については、パワーポイントのアニメーションを使うなどして効果的に提示していった。



成果と課題

映像を食い入るように見つめる姿や熱心に書かれた感想から、子どもたちの道徳的心情に十分に訴えることができたように思う。今後も様々な番組やデジタル教材を授業の中で効果的に使えるようにしていきたい。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	ノートパソコン1台 プロジェクタ
使用ソフト名	Power Point Power DVD
使用教室	普通教室